



第41号

2013年5月発行

発行責任者  
配川 寿好

北九州市戸畑区  
天籟寺1丁目1番15号  
Tel.873-3735  
(部内資料)

# とんでもない！権力に都合のいい憲法「改正」 参院選で危険な動きを阻止しよう！

7月の参議院選挙が迫っています。昨年末の総選挙で、小選挙区制の歪みによって大量の議席を獲得し発足した第二次安倍内閣。数の力での悪政のゴリ押し、暴走ぶりに国民からも、海外からも批判と不安の声があがっています。なかでも、憲法を変えようという動きに要注意です。

## 権力者をくしばるから国民がくしばられるから

特に、憲法96条の「改正」は、国民主権を骨抜きにするために内閣総理大臣に強力なリーダーシップを与え、憲法改正のハードルを下げようというもの。その先には9条「改正」があることは明白です。自分たちをしばるルール

## 生まれ育った故郷・戸畑のみなさん ともにがんばりましょう

日本共産党前参議院議員 仁比 そうへい



問近に迫った参議院選挙は、くらしと社会保障、外交、そして平和と民主主義など、これからの国のあり方を決めるたたかいです。とりわけ、憲法改悪の危険な動きを阻止するために、全力で頑張ります。

が厳しいから、権力者の側に有利になるように96条を変えろなど本末転倒です。

## 憲法問題に詳しい

### 東敦子弁護士の話

自民党が昨年発表した憲法改正案は、憲法9条を変えて、自衛隊を「国防軍」とし、「自衛権の発動を妨げ」ず、「国際社会の平和と安全を確保するために国際的に強調して行われる活動」までやってしまおう、つまりアメリカと一体となって戦争できる国にするとなっています。



東敦子弁護士

## 仁比さんといっしょに頑張ります

参議院福岡選挙区候補 まじま省三



私は、みなさんの声をまっすぐに国会に届けるために、仁比そうへいさんといっしょに全力をあげます。

## 自衛隊の戦車に乗る 安部首相



## 参議院選挙制度解説

1回目

選挙区  
投票は候補者名で

2回目

比例代表  
投票は政党名で  
※比例代表は政党名でも個人名でも投票できます

安倍政権をもてはやす最近の風潮と、マスコミがおおる近隣アジア諸国の脅威論が、この改正案のもつ恐ろしさに蓋をして、イメージ先行で改悪が現実化する危険が迫っています。弁護士である仁比そうへいさんは、この憲法改悪の危険な狙いを打ち砕くために必要な人です。そのために、何としても再び国会に押し上げたい。

『今』  
『でしよう！』

憲法改悪を  
阻止するか？

高橋 章夫

## ヨイサ!

リクルートスーツ姿の学生をよく目にする季節となった。会社は、「個性的な学生を」と望むが、男女ともブラックスのスーツというのは、没個性の典型ではないのか▼履歴書の自己紹介や志望動機もほとんど手引書通りに書くらしい。没個性という点ではスーツと同じだ。昨年度の直木賞、23歳の朝井リョウの『何者』を読むと、今の学生の置かれた過酷な就活状況がよくわかる。小説の中の表現を借りれば「会社にとって有益な何かをできる『何者』か」と▼ブラックス企業と言う言葉をご存知だろうか。三分の一以上が非正規労働者という今、学生は必死で正社員を目指す。その気持ち悪用し、「正社員」を大量採用して、ハラスメント行為で篩にかけるというあくどい企業だ▼借りた奨学金を返せない人が多いそう。単身学生が月に8万円借りると四年間で何と400万円。大学院まで行けば800万円の借金である。月8万円の半分は授業料で飛んでいくし、親からの仕送りは年々減って平均5万円位なので、殆どの学生はバイトに精を出し、学業はおろそかになっている▼40年前は、中卒で紡績工場で働いても、高卒でスーパーで働いても正社員だった。大学生は奨学金とバイトだけで繰らせた。本当に若者に過酷な社会だ。なんとかせねば。

# 『第3極』どうなった？

北九州市会議員 荒川 徹

## 議案すべて賛成

1月の市会議員選挙で、マスコミが『第3極』と持ち上げていた「日本維新の会」と「みんなの党」が、市議会にそれぞれ3人ずつ、合計6議席を得ました。

3月の市議会では、北橋市長が提案した平成25年度の予算等、多くの議案に対する質疑が行われ、市議会各会派の賛否が問われました。『第3極』の議員は、国保料の引き上げにも、A-Mビルやひびきコンテナターミナル等の赤字のハコ物への税金投入などにも、異を唱えることはありませんでした。

市議選後、初めて開かれた定例会市議会。その動向が注目されましたが、果たして…



## 三つに分裂

この二つの党は、選挙直後は六人で統一会派をつくると発表していましたが、議案が始まる頃には二つに割れ、終わると三つに分かれました。

# くすりのことなら ふれあい薬局戸畑店

戸畑区新池1丁目5-30  
☎093-881-2332

# 地名に秘められた戸畑の歴史 ⑧

戸畑郷土史会会員 安田 潤兒

## 天籟寺

昔、古老から「寺がないのに天籟寺、城がないのに天賀城」という言い伝えを聞いたことがある。何時の頃からこの地で人々が生活を始めたのだろうか。

先ごろ、戸畑市民会館を解体し、その跡地に区役所、マシオン等を建設した時に、瓦のかけらや土器が発掘された。その土器は塩壺であることが明らかになり、6〜7世紀頃のものと断定された。

塩壺が発掘されたことから、洞海湾は優れた塩田があったと思われる。また、天籟寺に残る明治時代の古地図に「竜が鼻」と呼ばれていた所があったように、入り江が入り込んでいて優れた良港だったと思われる。その名残として、正津、竹下、貴船等の地名が残っている。

今もこの辺りに林姓を名乗る人が多い。藤原一族の中に林姓を名乗る部族があることを考えると、6〜7世紀頃から藤原一族が支配していたのだと思われる。天籟寺に残る戸籍や墓碑に刻まれている家紋からも、その出身がわかる。林家は葛紋、茗荷紋が多く、これは藤原一族が使っていた紋である。このこ

とからも林家と藤原一族の関係がはつきりとわかる。安田家について考えてみると、家紋は竜胆紋で、丸に笹竜胆である。清和源氏の流れにかかわりがあると思われる。壇ノ浦の源平の戦以降、鎌倉の地まで帰ることができず、この地に残った源氏の武士の

流れを汲むのではないだろうか。この場合、前から住んでいる人達にとっては余所者であり、先住者たちと多少の確執が生じたこともあったのではないだろうか。

安田家の人たちが土着し、この地で生活を始めたのは11世紀(鎌倉時代初期)頃から以降であると思われる。このようにして、天籟寺が一集落を形成していったと思う。



# リヤカー引いて63年!

中川原勝樹さん(天神在住 87歳)



残念ながら、昨年現役を退きました。

ほうきやタワシなどの雑貨を山と積んだリヤカーを引く中川さん姿を見た人も、戸畑には多くいることでしょう。あのリヤカーの重さは250キロにもなったそうです。

そのリヤカーで行商を始めたのは父親で、23歳で父に同行するようになりましたが、最初

は恥ずかしくて、父の背中を見失わないように離れて歩いていたそうです。

そんな時代から63年、お天気さえよければ毎日でもお昼前に家を出て、小倉の繁華街を1軒1軒売り歩いて、夜7時くらいに帰ってくるという生活を続けてきました。月に一度ほど八幡方面を回ることもあり、どこにも中川原さんの来るのを待っていてくれるお客さんがいました。

歩いた距離は、地球を2、3周はしているだろうということです。

リヤカーは父の代から、年に1回タイヤを取り換え、修理を重ねながら使ってきましたが、中川原さん自身は病気知らず。これまで卸してもらっていた問屋が閉店したのでやむなく商売をやめました。そうでなければ「幾つになってもリヤカーを引いてるよ」と意気盛んです。

## 生活保護とは… その2 困った人を助ける制度です

「年金も掛けずに、保護をもらおうなんて…」という声を聞いたことがあります。年金は毎月の保険料を25年(300月)もれなく掛けないともらえません。病気や失業など保険料を払えない事態が起ると、たとえ24年分掛けていてももらえないのです。

このように、長い人生の中で何が起きるかわからないので、何が起きても大丈夫にするために社会保障があるのですが、日本の制度は欠陥だらけです。その欠陥の穴から落ちてしまった人を拾う制度が生活保護になってしまっています。